

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名 (名張高等学校 全日制)

I 目指す姿

| | |
|---|---|
| (1) 目指す学校の姿 | <p>校訓である「自律」「協調」「創造」の精神を活かし、地域とともに新時代の社会で活躍できる人材を輩出する学校</p> |
| <p>育みたい資質・能力 (育みたい生徒の姿)</p> <p>【グラデュエーション・ポリシー】</p> | <p>総合学科の系統的な学びをとおして「自律」「協調」「創造」を体現できる力を身につけている生徒。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自律」大きく変化する社会の中で、自分の力を信じ、学び続ける姿勢 ・「協調」社会のニーズを受け、仲間とともに目的に向かって協働する中で、それぞれの能力を発揮し、作り上げていく達成感を共有できる力 ・「創造」自分たちの感性を形にし、表現・発表することの喜びを実感できる力 |
| (2) ありたい教職員の姿 | <p><生徒とともに></p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼：生徒との信頼関係が構築できる。 ・授業：ICTを活用し、主体的・対話的で深い学びを意識した授業を中心に生徒の人間性と専門性を高めることができる。 ・相談：学習のつまずきや日頃の悩みに気づけるアンテナを持ち、耳を傾けることができる。そして粘り強い支援と指導ができる。 <p><保護者・地域社会とともに></p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼：保護者との信頼関係が構築できる。 ・連絡：日々の様子や変化を的確に共有できる。 ・情報：希望する進路実現ができるよう迅速な情報提供ができる。 <p><ワークライフバランスを意識した働き方></p> <p>会議の精選や業務の効率化などにより「働きやすい職場」を作ると同時に、自己の研修の還流等を図ることで「働きがいのある職場」を作る。</p> |

2 現状認識

| | |
|-----------------------------|---|
| (1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待 | <p><生徒></p> <p>生徒アンケートの結果、3年次生の約18%が就職を希望し、約46%が専門学校(看護系を含む)約36%が四大・短大への進学を希望している。</p> <p>授業、学校行事、部活動を中心に教育活動のすべてに対する期待度が高い。</p> <p><保護者></p> <p>学校目標や教育目標への理解度が高い。多様なニーズに対応し、進路実現を可能にしてくれる学校になってほしいとの期待度が高い。近年では、資格取得への取り組みに加え、ICT教育、消費者教育、主権者教育への期待度が高い。</p> <p><地域></p> <p>地域を支え、地域をリードする資質・能力を有する人材輩出への期待度が高い。また、一層活発な情報発信を求める声がある。</p> |
|-----------------------------|---|

| | 連携する相手からの要望・期待 | 連携する相手への要望・期待 |
|-------------------------|--|--|
| (2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待 | <p><家庭> 安心・安全に学べる環境と校風</p> <p><地域> 信頼できる学校から、学ばせたい学校への進化、地域づくりのパートナーとしての役割</p> <p><就職先> 卒業生や勤務先の先輩からの期待を裏切らない人材の輩出</p> <p><進学先> 学び続ける力と志を備えた人材輩出</p> | <p><家庭> 基本的な生活習慣の確立、本校教育方針へのさらなる理解と協力</p> <p><地域> 学校と地域が協働した取組みの推進 地域教育力の発揮</p> <p><就職先> インターンシップ、進路講話への協力 継続した採用</p> <p><進学先> 高大連携授業、進路講話への協力</p> |
| (3)前年度の学校関係者評価など | <p><確かな学力の向上> 「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（令和6年12月25日 中央教育審議会諮問）」によると、顕在化している課題として、「学ぶ意義を十分に見いだせず、主体的に学びに向かうことができない子どもの増加」「子どもの社会参画の意識、将来の夢を持つ子どもの割合等についても、改善傾向も見られるものの国際的に見て低い状況」が指摘されている。</p> <p>名張高校では、全日制においては総合学科の特徴を生かして、定時制では少人数クラスで個々の生徒の学びを支える学習活動を通して、また地域との連携した様々な活動によって、生徒は「学ぶ意義」を感じることができ、「本物の学び」を経験できている。このことは確かな学力を身につける原動力となっていると思われる。</p> <p>生徒や教職員が名張高校の学びの素晴らしさに気付くためにも、名張高校の生徒アンケートの数値の変化にだけ着目するのではなく、内閣府の「我が国と諸外国のこどもと若者の意識に関する調査（令和5年度）」の調査項目と比較するなど、名張高校ならではの教育の成果がより見えてくる手法を取り入れてもよいのではないか。</p> <p>アンケートでは「授業に積極的に参加できている」という問いに対して、「そうである／ややそうである」が各学年とも高い割合となっている。この割合をさらに増やすためには、少数の「あまりそうではない／そうではない」という否定的な回答の原因を分析することが必要ではないか。それによって、教師の授業改善につながると考えられるのではないか。</p> <p><豊かな心の育成> 「挨拶がなぜ大切なのか言葉で説明できる」というアンケート調査の項目で、3年生の2月には「できない」と回答する生徒はいなくなり、他の学年も多くの生徒が「できる／できるが自信はない」と回答している。教師が「挨拶をしよう」と単に呼びかけるのではなく、「挨拶がなぜ大切なのか」を生徒らに考えさせる取組は、形式的な挨拶ではなく、相手に対する心からの挨拶を身につけることができるのではないか。次年度も継続して取り組み、生徒全員が挨拶の大切さを自分の言葉で説明出来るようになることを期待したい。</p> | |

| | |
|-----------------------------|---|
| <p>(3)前年度の学校関係者評価など</p> | <p>〈総勤務時間の削減〉 働きやすい職場環境の構築に向けて定時退勤日の設定、部活動の休養日の設定、会議を60分以内に終了する等、具体的な数値目標を掲げ、組織的に取り組んでいることは大いに評価出来る。しかし総勤務時間は多くなっている状況もあるため次年度も縮減の取り組みを推し進めていただきたい。</p> <p>〈情報提供による信頼の構築〉 中学3年生とその保護者や地域に向けた学校広報誌の発行が年5回にも及んでおり、そのことが、名張高校への地域の信頼構築や「高校生活入門講座」の参加者の増加につながっているのではないかと考えられる。業務改善と広報誌がもたらす効果のバランスを考えながら、名張高校の教育活動とその成果の発信を引き続き行っていただきたい。</p> <p>〈教職員の資質向上〉 コンプライアンス研修、人権研修が計画的に実施されていることは評価出来る。研修が形骸化しないためにも、内容や形式を毎年工夫されたい。</p> |
| <p>(4)現状と課題</p> <p>教育活動</p> | <p>教育活動における課題は3つである。</p> <p>① 授業規律と聞く姿勢 人間関係の第一歩である「挨拶」について全職員が探究し続け、TP0に合わせた挨拶ができる学校文化の構築を目指す必要がある。本校の授業の目標に掲げている「あいさつと静寂を」を全職員が認識し、授業は勿論、集会等の最初と最後のあいさつを丁寧に指導していく。加えて「聞く姿勢」についても指導を行うことでメリハリのある授業を目指すことが1つ目である。</p> <p>② 自己肯定感を育む授業づくり 生徒満足度調査によると、「授業の内容が理解できている」と肯定的に答えた生徒の割合は、1年次で81%、2年次で90%、3年次では96%と、学年が上がるにつれて高くなっている。学年が進むごとに少人数展開や専門性の高い授業が増え、生徒一人ひとりに合った指導が行われるようになることが、理解度の向上につながっていると考える。また学年の進行とともに、生徒自身が学校生活や学習環境に慣れ、学習習慣が身につくということも一因であり、教師との信頼関係の蓄積や、友人との協働的な学びの中で安心して学べる雰囲気醸成されることも、理解度向上に寄与している可能性がある。</p> <p>一方で、苦手意識を持ち、学習に対して消極的な生徒も一定数存在する。そうした生徒も含め、すべての生徒が学びに前向きになれるよう「わかる授業」「学ぶ過程や成果が認められる授業」をつくっていくことが2つ目となる。</p> |

| | | |
|-------------------|-----------|--|
| (4) 現状 と 課題 | 教育活動 | <p>③ 探究活動で新しい時代に必要な力を</p> <p>昨年度、本校では探究活動が十分に深まらず、調べた内容をそのまま発表するだけで終わってしまうケースもあった。主体的に課題を設定し、自ら仮説を立てて検証を重ねる過程が十分に機能しておらず、生徒自身の思考の深まりにもつながっていない。背景には、教員側の指導観や探究活動に対する意識の改革の必要性も見受けられる。2月に予定している学習成果発表会に向け、教員も生徒も「探究とは何か」を改めて問い直し、学びのプロセスそのものを重視する取り組みを推進し、新しい時代に必要な力（コミュニケーション力、主体性、プレゼン力）を育むことができる総合学科をつくっていくことが3つ目の課題である。</p> |
| | 学校運営 等 | <p>学校運営における課題は「働き方改革」である。</p> <p>働きやすい職場環境の構築に向けて定時退勤日の設定、部活動の休養日の設定、会議を60分以内に終了する等、具体的な数値目標を掲げ、組織的に取り組んできた。しかし、年360時間を超える時間外労働者数が19人、月45時間を超える時間外労働者の延べ人数が74人と多いのが現状である。</p> <p>この原因として部活動の指導が教員の勤務時間を押し上げる一因となっていることが課題である。しかし、部活動に情熱を注ぎ、生徒と一緒に高みを目指して努力を重ねる教員たちの姿は、学校にとってかけがえのない力である。そうした部活動は、ぜひより高い目標を掲げ、誇りを持って続けてほしい。一方で、専門的な知識がない、負担が重いと感じる教員には、無理をせず適度な距離感で関わり、自身を守ることを大切にしてほしい。すべての教員が、自分らしいペースで子どもたちに向き合える環境づくりを、総勤務時間の管理とともに進めていきたい。</p> |

3 中長期的な重点目標

| | |
|---------------------------|---|
| 教育活動 【カリキュラム・ポリシー】 | <p>〈楽しい学校の醸成〉</p> <p>「楽しい」とは「知的に楽しい」という意味であり、平たく言えば発見や感動を得ることができる環境を指す。生徒が安心して学べる環境を整え、人格の形成を重視した「人権教育」を基盤に「聞く姿勢」の指導を継続して行く。そこに「わかる授業」の開発を推進し、発見や感動を生み出すことを目指す。学びが楽しくなることで、生徒の学ぶ意欲が高まり、日々の成長を実感できるようになる。この一連の流れをマネジメントすることで、生徒が自主的・自発的に学び、積極的に学びの場に参加する雰囲気が醸成された学校を目指す。</p> <p>〈地域社会で活躍できる人材育成〉</p> <p>地域社会の一員としての自覚を育み、地域活性化や社会貢献に向けた意欲を引き出す教育課程を常に見直し、実施する。自分の夢や目標を達成するために努力できる資質を育てることを目指す。</p> <p>進路実現に向けては、学校として系列や専攻ごとの学びと進路の方向性を共有することも重要である。その上で地域企業や専門家と協力し、実社会で求められるスキルや思考を実践的に学ぶ機会を増やしていく。生徒の思い描いた進路が実現できる、地域の就職先の開拓にも積極的に取り組んでいく。</p> |
|---------------------------|---|

| | |
|-------|--|
| 学校運営等 | <p>全教職員が、それぞれにおいて責任を果たすことで「重要度」と「満足度」が比例する「働きたい名張高校」を目指す。</p> <p>中長期的には総勤務時間の縮減を目指し、以下の3点を実施する。</p> <p>① 会議を精選し、会議時間を縮減する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各議事の時間を設定することで会議時間を短縮する。 ・各種委員会での議論を深め、改善案を提案し、改善策を実行に移す。 ・空き時間は教材研究に集中できる組織風土を育てる。 <p>② 部活動の活動時間の見直しや効率化</p> <p>部活動の活動時間については週1日の休養日の設置だけでは負担を感じる教員も多い。休養日を増やす見直しや、練習内容を工夫して、短時間で効果的な練習を行う方法を探る。例えばオンラインツールを活用して、教員が直接指導にかける時間を減らすことができないか等、新しい試みを検討していく。</p> <p>③ 教員の勤務時間のとらえ方を整理する。</p> |
|-------|--|

4 求める生徒像

| | |
|---|---|
| 入学時に期待される 生徒の姿 【アドミッション・ ポリシー】 | <p>(総合的観点)</p> <p>○ 学校生活</p> <p>本校の教育活動全般に対して強い興味・関心を持ち、入学後、積極的・意欲的に学校生活を送る意志のある者</p> <p>(個別観点)</p> <p>○ 学習について</p> <p>国語、地理歴史、公民、数学、理科、英語、芸術、保健体育、商業、情報、家庭等の各教科に強い関心を持ち、得意分野の学習活動に意欲的に取り組む者</p> <p>○ スポーツ・文化活動等について</p> <p>スポーツ・文化活動等に積極的に取り組んでおり、入学後もその活動を継続して行う意志のある者</p> <p>○ 地域活動・人権活動等について</p> <p>地域活動や生徒会活動、学級活動、ボランティア活動または人権活動等に積極的に取り組める者</p> <p>○ 進路について</p> <p>将来、地域社会の一員として地域の活性化や社会貢献をする意欲を持ち、向上心をもって自分の夢や目標の実現に努力する者</p> |
|---|---|

5 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例) 「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】 取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】 取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】 「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|----------|---|---|----|
| 確かな学力の向上 | <p>【活動指標①】 7月と2月に各取り組みに対する生徒満足度調査を実施する。</p> <p>【成果指標①】 回答率 95%以上。 また各設問において「できない」「ややできない」の回答者に対して「足りないもの」が書ける記述欄をつくることで、改善に必要な意見を引き出せるようにする。</p> <p>(1) 授業改善</p> <p>【活動指標②】 各教科において授業アンケートを実施する。(年2回)</p> <p>【成果指標②】 「学校生活の中で、「わかった」「できた」と感じることはどれくらいありますか。 「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒の割合 90%以上</p> <p>【活動指標③】 生徒満足度調査に探究活動に関する質問を加える。</p> | <p>【活動指標①】 満足度調査2回実施。</p> <p>【成果指標①】 7月：92% 2月：93% 未達成 回答率は達成できなかったが、本校規模の調査であれば傾向が見られる数は集まっている。次年度に期待。試行としてあいさつの調査で記述欄を作成した。項目を絞った形での自由記述は有効だった。</p> <p>【活動指標②】 授業アンケート2回実施。</p> <p>【成果指標②】 達成 92%</p> <p>【活動指標③】 満足度調査と別に2月に2、3年次生への調査に変更</p> | ◎ |
| | <p>【成果指標③】 「探究活動を通じ、何かに気づいたり、考えを深めたりする場面がありましたか?」という質問に対して「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒の割合 80%以上</p> <p>【活動指標④】 各専攻で「地域連携」を計画し、成果発表会を実施する</p> <p>【成果指標④】 日時と報告が1月の総合学科教育委員会にてなされ、2月にHPにて周知がなされる。</p> <p>(2) 基本的な生活習慣の定着と確立</p> <p>【活動指標⑤】 毎月、挨拶のポスターを作成する。それを全職員が掲示し、全職員が挨拶を1度以上話題にする。</p> | <p>【成果指標③】 達成 90%</p> <p>【活動指標④】 2月に成果発表会を実施。</p> <p>【成果指標④】 未達成 1月の総合学科委員会での取りまとめの是非について要協議。</p> <p>【活動指標⑤】 ポスター掲示は確認したが話題にしたことを確認する仕組みが確立できず。</p> | |

| | | | |
|----------------|--|---|-------------------|
| <p>豊かな心の育成</p> | <p>【成果指標⑤】 毎月の教員への確認において、挨拶のポスターを掲示率、話題にした率、ともに90%以上。</p> <p>【活動指標⑥】 生徒満足度調査に「挨拶」と「聞く姿勢」の指導に関する質問を加える。</p> <p>【成果指標⑥】 「挨拶がなぜ大切か言葉で説明できる」に対して「説明できる」「自信はないができる」と答える生徒が90%以上生徒による自己採点80点以上。</p> <p>【成果指標⑦】 「『話の途中、相手の話をさえぎらない』や『人の話にうなづく回数が増えた』など『聞く姿勢』に対する意識が向上した」に対して「そう思う」「ややそう思う」と答える生徒が80%以上。</p> <p>(3) 安全・安心教育</p> <p>【活動指標⑦】 生徒支援部（生徒指導係・保健係）、人権教育、学年による講話・講演等</p> <p>【成果指標⑧】 生徒満足度調査に以下の質問を行う。 「健康と安全について、適切な指導が行われていますか」の問いに、「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒の割合95%</p> <p>「命や人権を大切に作る指導が適切に行われ、安全に学校生活を遅れていますか」の問いに、「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒の割合90%</p> <p>(4) 意欲の育成</p> <p>【活動指標⑧】 進路実現に向けた進路指導部・学年による指導等</p> <p>【成果指標⑨】 生徒満足度調査において、「生徒の進路実現に向けて効果的な指導を行っていますか」の問いに「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒の割合95%</p> | <p>【成果指標⑤】 未達成 ポスター掲示率95% 話題にした率 計測できず</p> <p>【活動指標⑥】 成果指標⑥⑦にて実施。</p> <p>【成果指標⑥】 未達成 「説明できる」「自信はないができる」95% 自己評価 <u>68点</u></p> <p>【成果指標⑦】 達成 1年次：97.5% 2年次：94.7%</p> <p>【活動指標⑦】 計画通り実施。</p> <p>【成果指標】 未達成 89%</p> <p>達成 94%</p> <p>【活動指標⑧】 計画通り実施</p> <p>【成果指標⑨】 達成 95%</p> | <p>◎</p> <p>◎</p> |
|----------------|--|---|-------------------|

| | |
|---|---|
| <p>【活動指標⑨】 系列や専攻ごとの学びと進路の方向性を共有する</p> <p>【成果指標⑩】 各系列の学びの主な中身と考えられる進路の方向性をまとめた資料を作成する。</p> | <p>【活動指標⑨】 取組中</p> <p>【成果指標⑩】 未達成 資料作成できず</p> |
|---|---|

改善課題

(1) 生徒満足度の更なる向上を目指して

生徒満足度調査を年2回実施し、本校教育に対する生徒の受け止めを継続的に把握している。数値は概ね高水準で推移しており、全体として高い満足度を維持してきた。

昨年度の学校関係者会議では、「できない」「ややできない」と回答した生徒に対し、“何が足りないのか”を記述できる欄を設けることで、より具体的な改善点を把握できるのではないかと提案があった。今年度はその試行として「あいさつアンケート」に自由記述欄を設置した。その結果、「声の大きさ」「はっきりとした言い方」「自分から言う姿勢」など、生徒自身が課題を自覚していることが明らかになった。これは“分かっているができない”という認知と行動のギャップを可視化できた点で大きな成果である。今後はこの方式を満足度調査全体へ広げ、改善に直結する分析へと発展させたい。

(2) 「楽しい学校（わかる授業、探究活動による発見ある学校）」

今年度は「自己肯定感を涵養する授業づくり事業」に取り組み、「わかる授業」の実現に向けて授業改善を進めてきた。その成果の一つとして成果指標②を達成できたことは大きい。また、探究活動については、主幹教諭の指導のもと、3年間を見通した積み上げ型の指導体制を研究する過渡期にあるが、その状況においても満足度調査では90%以上の生徒が肯定的に回答している。これは本校の方向性が適切であることを示す結果と捉えている。今後は成果発表会後にも調査を実施し、探究活動で生徒が何を得たと実感しているのかを丁寧に把握したい。

地域連携についても本年度多くの取組を実施してきたが、年間の実施状況や成果を体系的に整理・共有する会議体の必要性を感じている。役割分担を明確にし、組織的に把握できる体制づくりを進めたい。

(3) あいさつ、聞く姿勢の指導

あいさつの取組はポスター掲示を徹底しているものの、毎月継続的に話題化できているかを確認する仕組みは未整備であり、今後の課題である。また、今年度の重点項目である「聞く姿勢」については現在調査中であり、数値がまとまり次第、学校関係者評価委員と共有する予定である。

(4) よりきめ細やかな進路指導

その他の教育活動には未達成項目もあるが、いずれも高い目標設定のもとでの結果である。今後も質の向上を目指し、取組を継続する。進路指導については生徒満足度も高いが、各系列の学びの主な中身と考えられる進路の方向性をまとめた資料を作成することで、難関私立大学への合格者も継続すると思われる。進学クラスへのさらなる支援強化を図り、進路実現の質を一層高めていきたい。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例) 「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|---|---|---|----|
| 総勤務時間の縮減 | <p>(1) 働きやすい職場環境の構築</p> <p>【活動指標①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後開催の会議が60分以内に終了した割合95%以上 ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合80%以上 ・休養日を予定通り実施できた部活動の割合100% ・部活動の活動時間の見直しや効率化を図った部活動の割合100% <p>【成果指標①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年360時間を超える時間外労働者数 0人 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 ・1人当たりの月平均時間外労働30時間以下 | <p>【活動指標①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未達成 92% ・達成 81% ・達成 100% ・達成 100% <p>【成果指標①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未達成 1人 ・未達成 69人 ・達成 23時間 | ◎ |
| 情報提供による信頼の構築 | <p>(2) ホームページ・学校広報誌等による情報提供</p> <p>【活動指標②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの刷新 ・効果的なSNSの調査と活用 ・中学3年生とその保護者及び地域を対象とした学校広報誌の発行 年5回以上 ・報道機関への資料提供 年7回以上 | <p>【活動指標②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成 ・達成 ・達成 ・達成 | |
| 教職員の資質向上 | <p>(3) 授業改善研修</p> <p>【活動指標③】 校内研修 年2回以上</p> <p>(4) コンプライアンス研修</p> <p>【活動指標④】 校内研修 年2回以上</p> <p>(5) 教員対象 人権研修</p> <p>【活動指標⑤】 校内研修 年3回以上</p> | <p>【活動指標③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成 <p>【活動指標④】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成 <p>【活動指標⑤】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成 | |
| 改善課題 | | | |
| <p>(1) 働きやすい職場</p> <p>今年度の学校運営における最大の重点取組は、部活動指導と教員の働き方改革を両立させる新たな方針の策定と運用である。</p> <p>これまで定時退勤日や会議時間の短縮などの取組を進めてきたが、時間外労働の大きな要因の一つが土日の部活動指導であることは明らかであった。そこで本年度、「部活動指導に関する平日の休暇取得方針」を策定し、土日に部活動指導を行った場合は、翌週に年休取得やオフ日の追加、定時退校日の設定等を計画的に行うことを全校的方針として示した。</p> <p>本方針は単なる制度化ではなく、「休むことを推奨する文化づくり」を目的としたものである。部活動は本校の大切な教育活動である一方で、教員の自己犠牲に依存し続ける形では持続可能とは言えない。情熱を尊重しながらも、組織として教員を守る仕組みを明確に打ち出した点が本年度の大きな前進である。</p> | | | |

今後は、部活動ごとの実施状況を把握し、取得状況の可視化を図るとともに、公平性と透明性を確保する。また、管理職による勤務状況の定期確認を通して、長時間労働の是正を一層進めていく。

「働きたい名張高校」の実現に向け、教員が心身ともに健康で、生徒と本気で向き合える環境を整えることを、学校運営の柱として継続していく。

(2) 情報提供による信頼の構築

ホームページの刷新、学校広報誌の定期発行、報道機関への資料提供等を続けてきた結果、明るい数値として中学生の受検者数の増加が見込まれている。地域全体で中学生数が減少している状況にあって本校の受検者数が増加傾向にあることは、本校の教育活動や情報発信が肯定的に受け止められている一つの証左であると捉えている。

今後は、発信の「量」だけでなく「質」にも目を向け、どの取組が受検者増につながっているのかを分析し、戦略的な広報へと発展させる。また、地域連携や探究活動等の成果を体系的に整理し、学校の魅力がより明確に伝わる情報発信体制を構築していく。

(3) 教職員の資質向上

今年度は授業改善を中心に研修を実施してきたが、教員のキャリアステージによってニーズが異なることが明確になった。次年度も「授業改善」をテーマとしつつ、若手・中堅・ベテランそれぞれに応じた研修設計を行う。特に若手教員については、2年次研修・3年次研修・6年次研修等の法定研修と校内研修を必ず関連付けることを位置付け、単発の学びに終わらせない仕組みを整える。校内での実践報告や研究授業と連動させることで、学びが循環する体制を構築する。

「若手が伸びる名張高校」を組織的に実現することは、学校の将来を左右する重要課題である。計画的な人材育成を通して、授業力の向上と学校全体の教育力の底上げを図っていく。

6 学校関係者評価

| | |
|---------------------|---|
| 明らかになった改善課題と次への取組方向 | <p>○確かな学力の向上</p> <p>今年度、生徒満足度調査に探究活動に関する質問が新たに加えられた。「探究活動を通して、何か気づいたり、考えを深めたりする場面がありましたか？」という質問に対して、「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒は90%にのぼっている。探究的な学びが高校3年間を通して段階的に教育課程の中に位置づけられ、系統的な指導を行ってきたことの有効性が示された結果といえよう。</p> <p>教科で学んだことが探究活動や地域連携活動に生かされ、逆に探究活動や地域連携活動を通して培われた問いを見出したり、考えたりする力が教科の学習で発揮されるという連関は、総合学科の特色を最大限生かした教育実践として高く評価できる。</p> <p>○豊かな心の育成</p> <p>今年度、あいさつについてのアンケートで自由記述欄を新たに設置し、その結果をもとに「わかっているができない」という認知と行動のギャップを可視化する工夫がなされた。「言われるからやる」「やらないと怒られる」という外発的な理由ではなく、「どうあるべきか」「なぜできないのか」「どうすればできるのか」という内発的な思考による行動変容を生徒に促すことは時間がかかることではあるが、「自ら考え、選び、責任を持つ」生徒を育てるという名張高校の教育方針の表れといえる。</p> <p>来年度から生徒の自律を育てる校則への転換に本格的に取り組む予定ということであるが、その過程において教師の生徒理解、生徒の自律が深まることを期待したい。</p> |
|---------------------|---|

| | |
|--|--|
| | <p>○総勤務時間の削減</p> <p>働きやすい職場環境の構築に関する「活動指標」のうち、放課後開催の会議が60分以内に終了した割合(目標値95%以上)は92%と未達成ではあったが、昨年度(令和6年度)の達成率85%と比較すると、教職員の間で会議の効率化を図ろうとする意識が定着しつつあるといえる。同じく、「成果指標」の年360時間を超える時間外労働者数については、目標の0人には達しなかったものの、昨年度の19人から1名と激減している。このことは教職員の働き方改革への意識の高まりの表れといえる。引き続き、教職員全員で働きやすい職場環境の構築に取り組もうとする学校文化の醸成を図っていただきたい。</p> <p>○情報提供による信頼の構築</p> <p>本項目の活動指標はすべて達成されており、学校の継続的な取り組みに敬意を表したい。在校生の活動を積極的に地域に発信していることで、地域の厚い信頼が定着している。少子化が進み入学定員の充足が多くの高校で課題となる中、様々な手法を組み合わせて情報発信することによって、名張高校では何を学ぶことができ、どのように生徒が成長しているかが可視化されている。このことは中学生が高校を選択する際に大いに役立っていると考えられる。今後も教育実践を発信し続けていきたい。</p> <p>○教員の資質向上</p> <p>職員研修が計画的になされていることは評価できる。例えばコンプライアンス研修の場合、どのような行為が違反になるのか、具体的な事例をもとに知ることとともに、高い倫理観が求められる教員として、研修を自身の言動を振り返る機会としていただきたい。</p> |
|--|--|

7 次年度に向けた改善策

| | |
|---------------------|---|
| <p>教育活動についての改善策</p> | <p>○探究活動や地域連携活動で育成された資質・能力が、教科の学習でも生かされていることを教師も生徒も意識化したり発信したりしていくことで、名張高校が取り組む教育実践の価値を学校内外で共有していただきたい。</p> <p>○来年度、校則の見直しに本格的に取り組むにあたり、今後のロードマップを教職員・生徒で共有しながら対話を重ねていただきたい。節目節目で、何がどこまで合意されたのか、今何が議論されているのか、今後の論点は何か等について全校生徒に向けて発信することで、学校づくりに自分たちも参画している、あるいは自分たちで学校の課題を解決しているという自信と責任を持ち、名張高校のさらなる発展の契機となることを期待したい。</p> |
| <p>学校運営についての改善策</p> | <p>○時間外労働時間の削減については、会議前に会議資料を共有しておくことで実質的な協議に時間を振り向けることによる会議時間の短縮や、生成AIの適切な使用によって事務作業(例えば議事録の作成など)の時間の大幅な削減も期待できる。生成AIの活用はすでに企業等で進んでいるが、学校現場でもどの業務で取り入れることが可能かを検討すべき時期が来ているのではないかと。</p> <p>○職員の資質向上については、研修で得られた知見が実際の教育活動でどのように生かされているかを確認することも重要である。例えば授業改善に係る研修後に、教員相互の授業参観を研修後におこなうなどが考えられる。</p> |